

# 若手研究者育成セミナーの魅力

山梨大学大学院医学工学総合教育部  
人間環境医工学専攻 生体環境学コース  
薬理学講座 博士課程3年

平山 友里



私は、若手研究者育成セミナーに過去4回参加しているリピーターです。本稿では、このセミナーの特徴や魅力を、私の参加経験をふまえて皆様にお伝えしたいと思います。これをきっかけに、多くの人が若手研究者育成セミナーに興味を持って頂けたら幸いです。

若手研究者育成セミナーは、毎年、神経化学会大会に併せて開催されます。そのため、第一線でご活躍されている先生方から、最新の研究内容や実験手技、研究者としての心構え等を学べるとても贅沢なセミナーになっています。今回私が参加したグループでは、「医学部出身ではない研究者が挑む神経系疾患研究」というテーマで講義が行われました。疾患研究は一体どのように進めていくのか、そのテクニックと最新の研究成果をわかりやすく丁寧に教えていただきました。

漠然と「若手研究者育成セミナー」と聞くと、講義がメインの堅苦しい勉強会という印象を受けるかもしれませんが、このセミナーは全くそのような雰囲気ではありません。一方的な講義ではなく、講師の先生方や参加者同士と自由に意見交換ができる、とてもアットホームな雰囲気です。参加者は初対面の人が殆どですが、お互い研究に携わっている者として共有できる話題は尽きる事無く、皆すぐに仲良くなっています。また、参加者の目的も、「憧れの先生の講義を間近で聞き、直接話がしたい」、「研究仲間を増やしたい」、「先生や先輩方に進路の相談がしたい」というように様々です。特に、自分が研究職に向いているかわからない、研究は好きだけどアカデミックでやっていく自信がない等の悩みを、相談している光景をよく見かけます。講師の先生方だけでなく、年齢の近いチューターの先生方からも経験談を含めてアドバイスしていただけるのは

とても嬉しい事です。

迷いなくアカデミックの道へ進むことを決めている人も、このセミナーに参加すべきと私は思います。博士課程修了後は、自分で研究人生を切り開いていかなければなりません。そのため、受け身の姿勢ではなく、自ら積極的に行動する力やコミュニケーション能力が重要と考えます。本セミナーには学部生から教授まで幅広く参加されているので、コミュニケーション能力を十分に養うことができます。また、ここでの他大学の先生方との出会いが、進学や就職に繋がったという例も実際にあり、このセミナーの隠れた利点でもあります。このように、多くの先生方に学生の立場である自分を認識していただける機会はとても少ないと思います。是非この機会に、自分をアピールしておきましょう。

自身の今後の研究人生に悩みを抱えている人は是非、本セミナーに参加してみてください。私自身も修士課程修了後、3年間大学病院で常勤薬剤師として働きながら、研究をしていた身であり（現在は研究一本です）、進路に迷うことは何度もありました。しかし、本セミナーに参加して、同年代の仲間が既に論文を数報出していることや、英語での発表を難くこなしている姿に刺激を受け、研究に対する意識が変わりました。さらに先生方からのアドバイスや後押しが今、迷いなく研究の道に進もうという決意に繋がっており、本セミナーから得たものの大きさを実感しています。

このように若手研究者育成セミナーは、現在活躍している先生方の最先端の研究内容を聞くことができるだけではありません。この絶好の機会を大いに活用して、自分の研究人生に役立てるべきだと思います。

何だか、若手研究者育成セミナーへの勧誘のようなレポートになってしまいましたが、それだけ魅力的なセミナーであることを、私は伝えたいです。